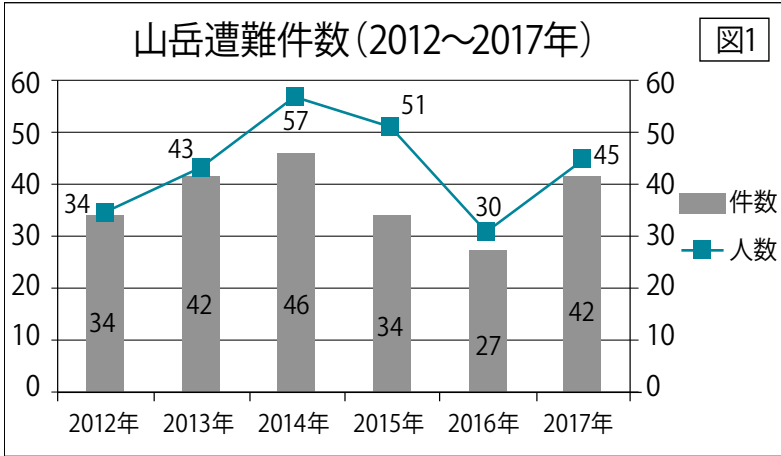


アウトレジャーにおけるケガの予防

セーフコミュニティちちぶ

●自然の中での安全対策委員会
秩父市管内における山岳遭難件数は、平成26年（2014年）をピークに減少傾向でしたが、平成29年（2017年）は、42件の山岳遭難が発生しました。（図1）遭難件数が増加した要因として、悪天候の日が例年に比べて多かったことが挙げられています。



平成27年～29年の3年間のデータをみると、「道迷いと滑落」での遭難が約7割を占め、遭難件数の多い上位山は、**両神山（27件）・武甲山（8件）・三峰山（7件）**です。件数の最も多い**両神山**は、下山中の遭難が多く、特に、**八海山付近と会所付近の転倒・滑落**が多くを占めます。これからの時期は、登山者も多くなるため、遭難件数も多く発生しています。今紹介した危険箇所や事故ケース（道迷い・滑落）などに注意し、**入山前の入念で無理のない計画、ヘルメットなどの装備品の用意**など、対策を万全にして、登山をお楽しみください。悪天候の日は、道迷いや滑落が発生しやすくなるので、登山を中止することも必要なかもしれません。

次に、農林作業中のケガですが、4年間で平均すると約9件の救急搬送件数が発生しています。（図2）

草刈機やチェーンソーによる事故は継続して多く発生していますが、最近のデータでは、**耕運機や管理機による巻き込まれ**の事故が多くなっています。

ケガの発生や重症化を予防するためには、**農林機具を使用する際の使用方法を再確認**するとともに、**周囲に注意し、安全な使用を心掛ける**ことが重要です。最後に、サイクリング中のケガですが、4年間で平均すると7件の救急搬送件数が発生しています。（図3）

道路上では、**下り坂や接触の事故が多く発生**しており、安全対策委員会では、サイクリングコースの概要や状況が記載されている「**サイクリングマップ**」を配布し、危険箇所を周知する取り組みを行っています。今年度は、サイクリストが立ち寄ることが多いコンビニエンスストアへお願いし、サイクリングマップの配布をスタートしました。サイクリングを行う際には、**ヘルメットの着用や雨天時のスリップ対策など、自転車のメンテナンスを忘れず**に、安全運転を心掛けるようお願いします。

また、アウトレジャーにおいては、**ハチに刺されない対策**（黒っぽい服は避けるなど）も忘れずお願いします。ハチの営巣活動は10月頃まで活発になりますので、ご注意ください。

セーフコミュニティ自然の中の安全対策委員会では、引き続き、データ結果を基に、アウ

トレジャーでのケガを減らすための取り組みを推進していきます。
問 危機管理課 ☎ 22-2206

